

「なぜ「ゴロンブスの卵」を描くのか」学習課題集解答

## 漢字

一 机の位置を変える。

2 大学で講義する。

3 聴衆の前で講演する。

4 見る機会がない。

5 状況(情況)が一変する。

6 卵を容器に入れる。

7 嚴重に包装する。

8 効率のよい作業。

9 原因を推測する。

10 課題図書。

11 野生の昆虫。

12 発想の転換。

13 標準に達する。

14 議論を展開する。

15 原点に戻って考える。

16 よい影響を及ぼす。

17 知恵をはたらかせる。

## 二

一 突然「とつぜん」話し始める。

2 幅広「はばひろ」い年齢層。

3 分野が異「こと」なる。

4 流通「りゅうつう」に便利。

5 トレイに収納「しゅうのう」する。

6 鶏卵「けいらん」を買う。

7 凶鑑「ずかん」で調べる。

8 千差万別「せんさばんべつ」(せんさまんべつ)。

9 斑点「はんでん」模様。

10 思考「しこう」回路を停止する。

11 途端「とたん」に笑い出した。

12 枠「わく」で囲む。

13 癖「くせ」をつけておく。

14 優「すぐ」れたものが多い。

15 既存「きそん」の要素。

16 温故知新「おんこちしん」。

17 先人「せんじん」の跡をたどる。

## 語句

一 効率「(費やした労力に対する)仕事のはかどり具合。」

2 千差万別「種々さまざまに変わっていること。」

3 淘汰「不必要なものを除き去ること。」

4 温故知新「昔のことを調べて、そこから新しい知識や

見解を得ること。」

二 一 悪天候にもかかわらず山に登るのは危険だ。

2 夕方あるいは夜から雨が降るかもしれない。

3 本番で失敗しないためには、常日ごろの心掛けが大事だ。

## 要点の整理

第一段落 初め〜七・一

タマゴを描いてくれというと、幅広<sup>ア</sup>「年齢層」の人が、また素人からプロの<sup>イ</sup>「デザイナー」まで、<sup>ウ</sup>「分野」の異なるさまざまな立場の人が、ほとんどタテ位置でタマゴを描く。

第二段落 七・2〜八・9

なぜタテに描くのか尋ねると、日常では「タテのタマゴ」を見ているから」と答える。たしかにタマゴは容器にタテに並べて売られており、<sup>エ</sup>「無意識」のうちに「タテ」という<sup>オ</sup>「イメージ」が形成されたと推測される。また、描かれたタマゴは、ほとんどが<sup>カ</sup>「鶏卵」である。鳥類の種類は一万種もあり、タマゴの形も色も<sup>キ</sup>「千差万別」だ。鳥のタマゴのほかに魚や昆虫のタマゴもある。こういうものに日常から触れていけば、もっとタマゴの発想の幅は広がっていたかもしれない。

第三段落 八・10〜九・5

タマゴという言葉のイメージが<sup>ク</sup>「鶏卵」に固定されると、他の動物のタマゴを描く<sup>ケ</sup>「発想」にも至らない。<sup>コ</sup>「アイデア」の発想と展開のためには、これまでの体験や経験の枠で作られた<sup>サ</sup>「固定観念」にとらわれることなく、常に命題の原点に戻って考える癖をつけておきたい。

第四段落 九・6〜終わり

日本の<sup>シ</sup>「伝統的」な包装の一つに、タマゴをヨコに包む<sup>ツ</sup>「藁つとが」がある。「アイデアとは<sup>ス</sup>「既存」の要素の新しい組み合わせ」だとすれば、<sup>セ</sup>「温故知新」、先人たちの<sup>ン</sup>「知恵」にも多くのことを学びたい。

## ●要旨

ほとんどの人がタマゴをタテに描くのは、容器の中のタマゴの<sup>ア</sup>「イメージ」があるからだ。種類もほとんどが鶏卵で、日常触れない他の鳥や魚や昆虫のタマゴは思い浮かばない。<sup>イ</sup>「アイデア」の発想と展開のためには、これまでの<sup>ウ</sup>「固定観念」にとらわれず、常に命題の原点に戻って考える癖をつけておきたい。日本にはタマゴをヨコに包む伝統的な包み方がある。アイデアとは<sup>エ</sup>「既存」の要素の新しい組み合わせだとすれば、先人の<sup>オ</sup>「知恵」にも多くを学びたい。

## 内容の理解

### 【正解】

一ウ

二産みたてのタマゴの向きはヨコ位置だから。

〈別解＝容器などに包装されていないタマゴの向きはヨコ位置になるから。〉

三・タマゴの向きはタテに決まっていると考えること。

・タマゴといえばニワトリのタマゴ(鶏卵)と考えること。

四また、常日

五ア

六ニワトリ以外の鳥類や魚類や昆虫類、両生類などのタマゴ。

七常に与えられた課題の基本となるところに立ち返って考えること。

八藁を使いタマゴを自然なヨコ位置のまま垂直方向に包む卵つと。(三十字)

九ウ

### 【読解のポイント】

一タイトルは、本文の出発点として筆者が抱いた疑問である。六ページ9行目に「では、なぜほとんどの人がタテに描くのか――。」とあるとおり、答えはウだ。ア、イ、エの内容は、どれも本文中から読み取れない。

二「考えてみると、産みたてのタマゴという自然な姿は、見る機会がほとんどない」(七・二)とある。産んですぐのタマゴは、ヨコ位置が自然なのである。

三「固定観念」とは、「心の中に凝り固まっていて、周りの状況によって変化せず、行動を規定するような考えや意識」という意味である。ほとんどの人がタマゴをタテに描いたのは、売られている包装や冷蔵庫のタマゴ専用トレイの収納などから、無意識のうちにタマゴはタテというイメージが固定化されていたからである。日常的に見ているタマゴが「鶏卵」だったからである。

四解答としては「ウズラのタマゴなどは、……ほしいところだ。」(八・5～7)も考えられるが、その後の文の「また、常日ごろから、……広がっていたかもしれない。」(八・7～9)の一文のほうが幅広く捉えられている。筆者はタマゴをタテにしか描かない人たちへ、「常日ごろから野生の動物のタマゴを見てほしい」「そうすれば発想の幅は広がる」と言いたいのである。

五「タマゴという言葉のイメージが、無意識のうちに鶏卵に固定されてしまうと」(八・10)とある点を押さえておくこと。「回路」とは「たどっていく道筋」のこと。八ページの14行目「答えをほかに求めようと」しないと、ほぼ同じ意味である。

六指示内容は指示語の前にある場合が多い。「ほかの鳥の「ほか」を「ニワトリ以外」に直すことを忘れないようにする。また、「描く」ものが「タマゴ」であることから、「……や……のタマゴ。」の形で答えること。

七「アイデアの発想と展開のためには」(九・3)とある点を押さえる。筆者がこの文章でいちばん言いたかった一文である。「タマゴを描く」という話題も、この一文のための序文のようなものである。「命題」とは、ここでは「課題」という意味。「原点」は、「基本となるところ」という意味である。本文では「命題の原点」と二つの語が続いているので難しく感じるかもしれないが、落ちついて平易な表現に置き換え、意味を捉えよう。「課題の基本」とは、タマゴの例で言えば「タマゴとは何か」といった問い直しのことだ。こういったことにより、固定観念に捉われず、さまざまな発想が可能になると筆者は考えている。

八「温故知新」の意味は、「語句一」の4ですでにみてきたとおり。第四段落の中の「故きを温ねて」にあたる具体例は、タマゴの伝統的な包装である「卵つと」である。卵つとがどのようなものであるかを三十字以内にまとめる。写真を参考に「連ねて」などの語を用いて説明してもよい。

九タマゴをタテに描くことが、いかに固定観念に縛られているかを説き、この固定観念に縛られない発想の幅を広げることの重要性を筆者は説いているのである。おもしろいのは、タマゴをヨコに包んだ「卵つと」である。これを見ると、昔の人は、タマゴはヨコになっているものだと思っていたことがわかる。ヨコに包むにはどうすればよいか。今と違ってプラスチックがない時代であるなお、ア、イ、エのような考えは、本文中からは読み取れない。